

遠くへ行きたい

酔っ払って帰ってきて

電気のないほうの壁をペタペタして

ひとり

ほくそ笑む暗闇

今日も

話を振られて

うまく答えず

場を白けさせたシーンだけ

繋いで

ニューシネマパラダイスでずっと涙ぐんでいる

今日も

地下階段の脇に

黒板式のメニューが置いてある

クリップ式のライトが照らす色合いで

ポテトやチキンが

どこかのビュッフェでずっと保温されている気がする

今日も

夏休み

かんぽの宿

一番に起きたら

こつそりと部屋を出て

静まり返る

お菓子のプッシャーゲームの間を抜け

リノリウムの細い一本道の廊下を

裸足で

歩いていく

今日も

食堂の

周りには

いつも

緑で

もつと

遠くに行くつもりだった気がする

朝早く起きるのが特徴で

いつも永六輔的な人が電車に乗ってるのを朝の時に見てたから

カブトムシがいなくなる明るさに

寝癖の父が食べるチチヤスのヨーグルト

積まれた座布団とそれを巡つての謎の兄弟げんか
薄く

安心しながら

そこはかとなく

むかついていたのか

いつまで経っても

「時にならないから

もう始めちゃいましょうかいや

新年会は鳳凰の間でいいやもう

コート預けて

名前を書いて

弛緩した顔で

均衡の崩れたほおでみんな

ビール瓶持って

歩き回る

何してはるんですか

なんか仲良くなるような

ならんような

ドライアイスみたいな高揚感

しよつたまま

みんな

帰っていく

疑いきれないし

信じきれもしないまま

表向き

くつつけた気になりながら

ないと思いつながら

そんな人達の前で

自分だけは

なんとか

やりおおせた自信だけが残り

つまり残らない

葉のように

挟ん挟んで挟んできて

実は

挟まれてたかもしれない

信号待ちの思案

右折待ちの車に

よれよれの蛇みたいな白線が映り込んでいる

ヤマトレデイが帽子の後ろから

茶髪のポニーテールを揺らしている

別の生き物

夏の自転車の漕ぎ方で

若い娘が尻を浮かせていて

入道雲が発達せざるを得ない

配電盤の上にスロットのメダルが一枚乗っていて

昨日の雨が表面張力でこんもりと残っている

100円かもしれないのに

近づいて見なくても

分かるんだ

もう

何回か

土手を

組んず解れつの

転がり落ち方をしながらも

なんだか

一個の告白をしないことには

傷つけないことに

就中

身を焦がしていて

それでもなお

角刈りでお願いします

いや

夏のゴミ収集車

いや

のぼり坂の向こうから

いや確かに

子どももの頃には

空が翳ると

どーんという

音が鳴った気がするのだが

今日も

マツサージと称した

ただの打撃を肩に受けながら

思い出すように

憤怒が溜まってって

表に停めた自転車の
スタンド蹴ったときに
なんとなく見る

青い空を

イメージできるほど体が軽くなっていて

キョーレオピンののぼりから

オードムーゲののぼりまで

ずっと往復している

そして

これからも

ジェットソン

いちもつもジェットソン

ほとぼりもジェットソン

大阪から泉佐野ジェットソン

今日も

柴犬の尻尾がたくさん

落ちていて

もうそれを踏んでしか帰れない

ルール変更に泣く娘

5年後に抱く感じ

避難を余儀なくされ

ここに

意味もなく残る感じ

中島義道を読んだのなら

大学は

夏の陣に突入する

みすぼらしいと

会うのがつらい

雨の日にも

よれよれのシャツの日にも

久しぶりだったが

おやじと母の出身地を

ひっくり返しただけで

あとは正確に覚えてくれていた

その続きを尋ねられ

知らない

知ろうともしない

それはそれで大変そう

と言った

おまえに

そのお返しを

しなかったのが悔やまれり

腹の底から

どうでもいい

女の子に

キヨスクのご当地キティちゃんを

あげる

とほほ顔の

中間管理職の

筋肉が駆け巡る野山や女

なにもかも

喉の奥で

ぽしやらせざるを得ない

すっぽ抜けた空気だけが共感できる

また

幕末の話がしたい

るろうに剣心の話がしたい

さあ

ラスボスをどう始末するか

そんな相談が

毎晩繰り返される

滅びの村で

寝て

起きて

終盤に

こんなにくら寂しい村があるのは

きつと

あれだろう

演出ではなくて

単に容量が足りなくなつた

だけなのだろうと

RPG ツクールを始めてから

ずっと

そう信じてた

誰も後先なんか考えないと

なぜ

ゲットした嫁は常に軽い鬱なのか

手で握ったオイカワなのか

良い買い物をしたいのに

じつくりできずに

マラソンのドリンクのように出合い

もぎとるからか

最愛

は無理

たまたに疑義も呈してみたくなるから

でも煙る

嫁も子どもも

煙りそうになる

煙い

霧みたいな愛しさでしゃべっている

窓に

卵が

投げつけられたのは

通りを挟んで

三軒南

二人目が

産まれたその目に宿る不安を解消すべく

俺が

犯人になっちまおうかと思った

プリキユアを

見ない事だけが生き甲斐だったのに

角度が衰えてきた気がして

今日は

デスクに座りながら

ひたすら尿道の開け閉めをしていた

括約筋が疲労して

少しずつ漏らしながら

歩く

帰り道

ここ

酒屋さんやったよな

と言った直後の駐車場が

本当の酒屋があつた場所だつた

今日もまだ

島田紳助が大画面テレビでコナン君が

まるで隠れていないように見えたと

人間曼荼羅で

話していたのを

覚えている

東京の

おじさんは

会話が途切れぬ

怯えの原理の埋め立て地の末路

ひどい甘えに見える

妻の頭痛がする

血管に植えつけられ

リンパが悪くなっていく

ずっと尊属殺

きつと尊属殺

たまにキラツとする

古いアルバム

癖になり

手酌でね

いつか